



Vol, 40 No. 1
2023. Jun



秋田県作業療法士会 印刷 川嶋印刷株式会社

発行 一般社団法人 秋田県作業療法士会 ホームページ <http://akita-ot.jpn.org/>
会長 川野辺 穰
編集 一般社団法人 秋田県作業療法士会 広報誌編集部
〒018-5421 秋田県鹿角市十和田大湯字湯ノ岱 16-2
大湯リハビリ温泉病院 作業療法室・児玉 達則
TEL 0186-37-3511 FAX 0186-37-3483
E-mail: akita_ot_kouhou@akita-ot.sakura.ne.jp
事務局 〒010-0041 秋田県秋田市広面字屋敷田 25-2 セジュールエスト 105 号
TEL/FAX 018-837-0552
E-mail akita_ot@akita-ot.jp



新会長挨拶

秋田県立循環器・脳脊髄センター 川野辺 穰

先日の総会後の理事会にて、高橋敏弘先生からバトンを受け取る形で、理事の先生からのご推挙もあり会長の職を担うことになりました川野辺穰と申します。任期 2 年務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

挨拶に先立ち、まずは高橋先生、調べましたら会長職だけでも 24 年にわたり私たちを牽引し、ご指導していただきました。本当にありがとうございました。日々の多忙な業務の中で責任ある会長職を、緊張感をもって長い期間、全うするご苦勞は想像を絶するものです。先生からご指導いただいたことを胸に、理事全員でその期待に応えていきます。引き続きご指導・ご鞭撻をよろしくお願いいたします。



写真：秋田県作業療法士会定期総会 会長就任あいさつより

では抱負ということで少し書かせていただきます。今年度の基本方針については令和 5 年度総会資料をご覧くださいと思いますが、改めて強調したいことは、協会の組織改革に合わせ、秋田での活動現状に合わせた形で、県士会の体制も変更するために検討していきます。少しでも会員の皆様に参加・協力していただけるような、透明性のもつ体制を整えていきます。会員の方々はお仕事や家庭を抱えて多忙な時間を過ごしていると推察しますが、その中でも県士会の仕事をしてみたいと考えている方もいると思います。参加の形はいろいろあります。みなさんのライフステージ、社会情勢は刻々と変わりますが、声を上げやすい環境づくりに努めていきたいと考えます。決まりましたら何らかの形で早めにお伝えします。

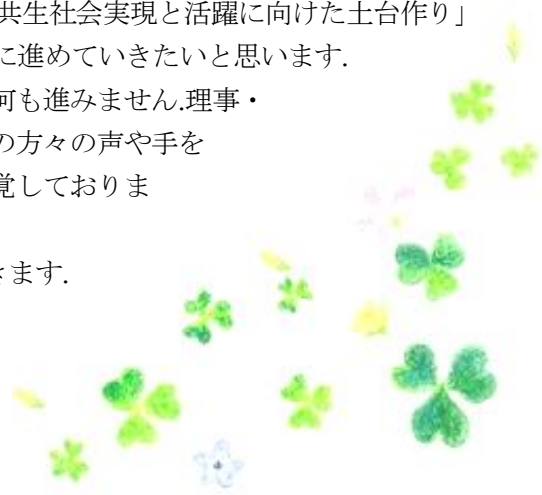
もう一つは協会誌 4 月号の記事で、2023 年重点活動項目が紹介されています。今年から始まる協会の 5 年戦略の主要テーマが「地域包括ケア・地域共生社会への寄与する作業療法の実現」です。地域での活動の大切さは皆さんが感じていても、踏み出せないところもあると思います。今現場で地域を支え、支援事業に関与されている先生方のご努力により、少しずつ活動・関与は広がっていますが、それでも人材不足の現状は変わりません。なかなか本務がある中で地域の事業に関わるのは難しいところもありますが、関わる先生方は情熱をもって頑張っておられます。少しでも県士会として応援できる体制を作っていくことに加え、皆さんも育成研修会に参加いただき、実際参加すると沢山の学びと気づきがありますので是非お願いします。勇気をもって外に出ていくことは作業療法の強みをアピールするには格好の舞台となりますが準備は必要です。この努力を怠れば私たちは時代の波に淘汰される可能性もあります。みなさんの積極的な関与とご協力をお願いしたいところです。

最後に、私たちの学びの形もこの 2~3 年で大きく変わってきていることです。もう少しで協会主導の新しい生涯学修制度も始まります。県士会の研修体制も時代に合わせて皆さんの学びの場を確保できるように新たな形を模索していくこととなります。現職者以外にも学び直しの場も大事です。今少し滞っている方も新しいシステムの中で再び動き出すのもいい機会とも感じます。卒後教育について、みなさんの忌憚のないご意見をぜひいただければと思います。

「新たな学びの形の創出と福利厚生充実」「地域共生社会実現と活躍に向けた土台作り」
大きいテーマですが、いただいた 2 年で少しでも前に進めていきたいと思えます。

私自身偉そうにいろいろ書きましたが、私一人では何も進みません。理事・
監事・相談役の先生方のご助力を頂きながら、会員の方々の声や手をお借りして頑張りたいと思っております。微力は自覚しておりますので、何卒ご協力ください。

以上簡単ですが就任のあいさつとさせていただきます。
よろしくお願いいたします。



県士会長の退任にあたって

特別養護老人ホーム 真森苑 高橋 敏弘

4月22日に開催された一般社団法人秋田県作業療法士会定期総会をもちまして、県士会長を退任し、川野辺穰新会長に引き継ぎました。

私は昭和59年に岩手リハビリテーション学院を卒業し秋田に戻ってから県士会の活動に参加しました。昭和61年から昭和63年まで秋田県作業療法士会事務局長、平成元年から平成3年まで秋田県作業療法士会会長、平成4年から平成9年まで秋田県作業療法士会事務局長、平成10年から平成13年まで秋田県作業療法士会副会長を歴任し、平成14年から一般社団法人秋田県作業療法士会会長として長きにわたり県士会の役員を務めることができたのは会員の皆様、理事の皆様のご協力とご支援の賜物であり、心よりお礼申し上げます。

作業療法士は全国的にも秋田県内においてもこの20年くらいで急激に増えてきました。作業療法士が増えて多くの国民、県民が作業療法のサービスを受けることができるのはとても喜ばしいことと思いますが、一方で日本作業療法士協会の組織率の低下や倫理にかかわる問題が増えているのも事実です。

また作業療法士の数が増えたことによる診療報酬や介護報酬の引き下げや制限、待遇面の悪化傾向など作業療法士の数が増えたことを喜んでばかりもいられない現状もあります。より厳しくなっていくと思われる作業療法士を取り巻く環境の中で作業療法士の生き残りをかけたアピールがますます重要になってきました。そのためには個人としての作業療法士ではなく、集団として組織としての作業療法士の力が不可欠です。

秋田県内でも協会や県士会に未入会の作業療法士が増加傾向にあるようです。

川野辺新会長のもとで、作業療法士のさらなる地位の向上をめざすよう皆様には引き続き県士会活動へのご協力をお願いいたします。

最後になりますが、令和6年7月の東北作業療法学会が秋田市で開催されます。学会長は不肖ながら私が努めることになりました。

学会のテーマは「作業療法・作業

療法士の質」として準備を進め

ています。来年は秋田学会を

東北学会に統合する形とし

ますので、今から演題発表

の準備等をしていただき秋

田での東北学会を盛り上げ

て頂くようお願いいたします。

今まで本当にありがとうございました。

そしてまた引き続きよろしく
お願いいたします。



長い間
ありがとうございました

特集

第30回 秋田県作業療法学会

学会長より

第30回秋田県作業療法学会を終えて

学会長 かつの厚生病院 成田 修

去る4月22日(土),第30回秋田県作業療法学会が107名の会員及び新入会員の参加のもと、オンラインで行われました。

今回は「ウィズコロナの作業療法」として、あと2週間ほどでコロナの位置付けが5類に引き下げられ、制限からは解放されるもコロナウイルスとは共存した上でOT活動を続けなくてはならないという、まさにどストライクなタイミングのテーマで行わせていただきました。

内容は一般演題、特別講演、シンポジウムとさせていただきましたが、各演者にテーマの趣旨を伝え、依頼をしたのが10~11月とオミクロン株が猛威を振るっている最中で、各病院でクラスターが発生したり、スタッフが濃厚接触者となったため自宅待機を余儀なくされ業務が逼迫する、という事が毎日の様に起きていた時期でした。そのような中で依頼をお受けして演題の作成や発表スライドの作成を行っていただいた演者やシンポジストの方々には感謝しかありません。

一般演題では5題もの発表があり、大変な状況の中でも自己研鑽や研究に余念がない先生方には頭が下がる思いです。内容も多岐にわたりましたが、以前新聞で拝見したわらび座の協力の元、演劇プログラムが高齢者の身体機能や認知機能に与える影響を調べた研究など、非常に興味深く拝聴させていただきました。

特別講演では「なんだかんだで20年~今日までそして明日から」のタイトルでなかみちケアセンターの石川佐智子先生よりご講演いただきました。自分が20年以上前、由利本荘市の病院に勤務していたころから同市で地域に根差した活動を続けておられた先生ですが、改めて先生の活動を振り返ると地域の利用者さんの幸せを一番に考え、そのためにできることをご自身の感覚で実践されてきたように感じました。病院経験が長いとどうしても診療報酬の枠組みにとらわれて出来る事が制限されがちですが、自分がやりたい事をやってそれを行政等に認めさせる先生のエネルギーや仕事の有り方には見習う事ばかりでした。

シンポジウムでは身障、地域、精神の各領域からそれぞれコロナによって大変だったこと、それに対する対策、今後のOT活動の在り方等についてお話を伺いました。

感染対策に関わらず起こってしまうクラスターに振り回され、病棟の出入りや患者さんや利用者さんへの関わりが制限され、自分の周囲のスタッフや家族に対する不安を抱えながらもそれでも医療職として出来ることを実践してこられた先生方のお話は自分も含めて参加者全員が共感し、励まされたと思います。今回コロナ禍での活動を経験したことで、今後新たな感染症が出てきたとしても、職場一丸となって対策に取り組むことで患者さんや利用者さんに喜んでいただけるサービスの提供が可能となることを各先生方が示してくれたように思います。

閉会式でも、今年度で20年以上に及ぶ会長職を勇退される高橋敏弘先生の功績が紹介され、

新会長の川野辺穰先生が就任されるなど、役員若返りにより県士会の活動が更に活発となり
 そうな印象でした。

最後に、今回の開催にあたりご協力いただいた実行委員の皆様改めて感謝申し上げます。今
 回はコロナが蔓延した中での準備であったため、全ての実行委員会をリモートで行わざるを得
 ない状況のなか、パソコンが苦手な（というか出来ない）自分を助けていただきありがとうございました。

この文章が発行されているころにはコロナの分類も5類に引き下がり制限も緩和されている
 とは思いますが、節度を守った上で当学会の打ち上げなど出来ていればいいな、と思う今日この
 頃でした。



印象記

第 30 回秋田県作業療法学会に参加して

医療法人正観会 御野場病院 阿部 幸恵

令和5年4月22日に第30回秋田県作業療法学会～ウィズコロナの作業療法～がウェブ開催
 にて行われました。今回私は初めて一般演題で発表をさせていただきました。準備に際して、
 改めて患者さんに行った評価・介入・経過を振り返り、文献を読みながら介入が妥当であった
 のか、他のアプローチ方法もあったか考察・検討する良い機会となったと感じました。日々の
 業務でも分からない点は調べ、他の先生にも相談しながら評価・介入を行います。退院され
 た方の経過を見直し言語化する、というのは発表をしないとなかなか機会を設けることが出来
 ないと思いました。特に言語化する事は私自身苦手であり、ニュアンス的な表現にしまい
 がちな部分を、リアリティを残しながら日本語にすることが大変でした。また時間制約がある
 中で聴講者の方にとっては初めましての対象者について、伝えたいことの要点がぶれない様に
 分かりやすく見やすくスライドにまとめることも苦勞した点でした。発表に関しては ZOOM
 配信ならではのマイクのトラブルもありましたが無事に終えることが出来ました。今後対面
 の開催が再開されれば緊張感や学会全体の雰囲気も違うのだろうなと思いました。

特別講演では石川佐智子先生の地域での関わりについてご講演頂きました。臨床実習でお世
 話になった施設もあり少し懐かしく感じながら聴講させていただきましたが、コロナ禍での変
 化もあった様子でした。病院での関わりとまた違う、より対象者や地域の特性に合わせた生活・
 作業(仕事)を提案していくことの重要性を学びました。シンポジウムでも3病院のコロナ禍
 の取り組みについてご講演頂きました。コロナ流行による普段と異なる業務やリハビリ介入中
 止に際して対象者への介入、集団活動場面での工夫等、各病院様々なコロナ禍での経験のもと
 対策や今後の展望について発表されていました。コロナは収束に向かっておりますが、今後他

の感染症流行の際の参考にさせていただきたいと思いました。

最後になりますが、学会開催にあたり成田学会長をはじめ、実行委員の先生方、ご指導して頂いた先生、ご質問して頂いた先生に心より感謝申し上げます。

第 30 回秋田県作業療法学会に参加して

今村病院 菊池 麻衣

令和 5 年 4 月 22 日に開催された秋田県作業療法学会に参加しました。今年のテーマは「ウィズコロナの作業療法」ということで、コロナ禍の作業療法における感染予防策や、感染拡大が起こった際に、作業療法士がチームの一員として担った役割についてのシンポジウムも開かれました。それぞれの状況における最善の対応、リハビリを中断せざるを得なかったことを踏まえて今後活かす方策など、とても参考になりました。コロナウィルス感染症が 5 月 8 日から 5 類感染症に引き下げられたとはいえ、医療・福祉の現場では脅威である現状に変わりはありません。リハビリの中断が患者様の機能・能力や生活そのものに影響を与えてしまうことを念頭に置き、慎重な行動・対応を継続していきたいと思えます。

特別講演では、なかみちケアセンターの石川佐智子先生より、「なんだかんだで 20 年～今日まで、そして明日から」というテーマでご講演をいただきました。冒頭で紹介された、「訓練を受けていると、このままじゃダメなんだよ、と言われている気がする」という、近い立場だからこそ聞き出し得た当事者家族の声に、普段はなかなか聞くことのできない患者様の本音に触れてしまったように思い、はっとさせられました。障がいとともによりよく暮らしていくための支援をすることが、障がいをネガティブに捉えてしまうことにつながるというジレンマに陥るようになってしまったのです。しかし、個々の特性が真に理解され、適切な関わりと援助の中で「できること」が増えていき、そして励まされ、繰り返すことにより自信が生まれ、「できること」を「すること」にしていくお手伝いをするのだというお言葉で、はじめに感じたジレンマが誤解であったことが分かりました。患者様の特性や機能・能力を把握してできることを増やし、生活を広げていくこと、そのためには患者様が主体となり、共にニーズの実現を図ることが大切であり、作業療法士の一方的な押し付けであってはならないことを再認識しました。

私が臨床で関わる患者様は重度認知症の方で、患者様自身で生活全体を見通してニーズを見つけるということが難しいと感じることもあります。その方の現在だけでなく、長い人生をどのように生きてきたのかも考慮しながら、その人らしい生活を続けられるような支援を行っていききたいと思います。



職場紹介

社会福祉法人あけぼの会

介護老人保健施設なごみのさと

藤井 峻太郎

当法人は「人財創生と地域の未来創り」というミッションを掲げ、「大曲の花火」で有名な大仙市大曲を中心に展開している社会福祉法人となります。花火大会の会場まで徒歩 3 分の立地で介護老人保健施設を母体に、平均年齢約 36.5 歳、約 200 名のスタッフが医療福祉事業を展開しております。

「人間の幸せに役立つ施設は必ず繁栄する」という理念を基に平成 9 年に医療法人あけぼの会として開設しました。平成 24 年に社会福祉法人へ設置主体が変更となり、現在では老健、通所リハビリテーション、訪問リハビリテーション、リハビリ特化型通所介護事業においてリハビリ専門職が多数活躍しております。

当法人には作業療法士 7 名、理学療法士 11 名、言語聴覚士 1 名計 19 名のセラピストが在籍しております。老健入所定員 100 床(内認知症専門棟 30 床)、ショートステイ(空床利用)、通所リハビ



リテーション定員 60 名(1 日・半日リハビリ専門コース),訪問リハビリテーション,リハビリ特化型デイサービス(歩行と言葉のリハビリ空間なごみ大曲・横手)で利用者様の「オモイ」を「カタチ」するための支援を行っております。

入所事業部では在宅復帰・在宅療養支援に力をいれており,超強化型老健として運営しております。昨年 8 月より平日に加え,土曜日もリハビリテーションの提供を開始しました。

利用者様の「夢(目標)」を叶える為に,当法人では「多職種協働」を重視しております。その一つとして「HAPPY & LIFE PLAN」というプロジェクトがあります。これは「YUME KANAERY」をスローガンに,利用者様の「オモイ」を「カタチ」にする為,関連職種が協働し,生活実践リハビリプログラムを行い,生活再建を図るものです。利用者様の在宅復帰後の生活再建が実現し,夢が叶い,利用者様の満面の笑みを見せてくれた瞬間は作業療法士冥利に尽きます。

その他,エビデンスの構築の為,LIFE 関連の加算を積極的に算定し,法人内情報共有システムや AI アプリによる歩行分析等 DX を積極的に推進し,業務効率化・生産性の向上を目的に法人一体となり活動しております。

あけぼの会では病気や障害があってもその人らしい生活,人生最後まで生涯現役ということの本気で支援したいと思っています。セラピストの専門性をもちながら多職種協働でこれからもより多くの利用者様の夢を応援し続けていきたいと思っております。



元気があればなんでもできる！

「きょうだい」支援を考える

社会福祉法人北杜 障がい者支援施設ほくと 若狭 利伸

皆さん,こんにちは。秋田市にある障がい者支援施設ほくとの若狭利伸です。

前は「秋田の大人世代向けフリーペーパーももふく」について紹介しました。お陰様で県内各地の病院・施設の方々からご連絡をいただき,大好評です！5月に第3号も発刊しましたので,引き続きバックナンバー含めて「読みたい！」という方からのご連絡をお待ちしております。(otwaka0306@yahoo.co.jp)

さて,今回は「きょうだい」の支援について紹介したいと思います。皆さんは「きょうだい」という言葉をご存知でしょうか？最近「きょうだい児」という表記や「ヤングケアラー」の中に括られたりもしますが,【病気・障害のある子の兄弟姉妹】のことをいいます。

きょうだいには様々な悩みや問題が存在します。もちろん全員が全てに該当するわけではなく,年齢,性別,障害の種類,家庭環境,考え方などによって異なりますが,＜親が病気・障

害のある子に付きっきりで時間がとれない><家では常にハプニングや騒音だらけで勉強の時間が取りづらい><親に代わって病気・障害のある子のケアを継続的に行う必要がある><恋人・結婚相手や出産の壁><親亡きあと問題>といったものが挙げられます。これはごく一部ですが、その出来事や悩みのタイミングによっては、きょうだいの人生を大きく左右することもあります。

そこで支援の一環として全国各地で開催されているのが「きょうだい会」です。いわゆる当事者の会なのですが、子供であれば遊びを通してケアする形、中高生であれば進路の悩みを相談する形、大人であれば自分自身の経験談を共有する形や年齢別で差し迫っている困りごとの解決策を意見交換する形と内容は多種多様です。最近では、大人になったきょうだいがボランティアさんと一緒にきょうだい会を主催している県も増えてきました。

では、秋田でのきょうだい支援はどうなっているのか？やっています！実は…この文章を書いている私、若狭も5つ年下の弟に重度知的障害があり「きょうだい」の立場。大人になった今だからこそ、リアルタイムで困難を抱えている子たちのためにアクションを起こせないかと、現在複数の団体、ボランティアさんとタッグを組み「あきたきょうだいネットワーク」として活動しています。

そんな私からお知らせです！（結局告知になりすいません！）8月19日（土）10時～秋田市にぎわい交流館あうを会場に「シブリングサポーター研修」を開催します。シブリングサポーターは、きょうだいの応援団。きょうだいの持ちうる悩みや思い、安心を増やすための工夫を学ぶ他、情報交換や支援のスキルアップを目的として研修を行います。きょうだいの支援は、当事者だけではなく、様々な立場からのサポートが必須です。当日は、講義・グループワークの他、遊びを通したワークショップを開催し、受講した方はシブリングサポーター認定証がGETできます。きょうだい支援に興味のある方、現場で出会うきょうだいが気になっている方、身の回りにきょうだいがいるという方、ぜひ受講してみてください！受講を希望される方や詳細は若狭 (otwaka0306@yahoo.co.jp) までご連絡をよろしくお願いいたします！

最後になりますが、OTの皆さんも現場でふとした瞬間にきょうだいと接しているかもしれません。もし関わる機会があれば、ほんの少しでもいいので声をかけたり、手を振ってあげたり、病気・障害のある子だけではなく、そのきょうだいも気にかけてもらえる嬉しいなと思います。いち、に、さん、ダーッ！ありがとうございました！



県士会への異動届はお済ですか？

新年度も始まり、早2カ月が過ぎました。新入社員はもちろん、同法人内での異動や退職された方も多くいらっしゃると思います。県士会では会員の把握のため届け出をお願いしております。職場内や同級生同士お声をかけて頂き、届け出忘れが無いようよろしくお願い致します。



みんなで語るべ ～日々の楽しみ方～

語り手: 島田病院

私は、バスケットボール観戦が好きで楽しんでいます。🏀
もちろん秋田ノーザンハピネッツの試合は全試合見えています。🐸 最近は、マスク着用での声出し応援も可能となり嬉しいです。👏 いつもならば、Bリーグは6月頃からオフシーズンになり、寂しい気持ちになりますが・・・

今年はワールドカップが沖縄で開催されるので、沖縄に行きたいと思っています。🌴



去年から友達に影響されてキャンプを始めました！テントや寝袋、調理器具など初期投資はそれなりにかかりましたが自然豊かな場所でテントを張ってゴロゴロしたり漫画を読んだりたき火したり料理したり…自宅では味わえない解放感や非日常感を楽しむことができ最高です！
おすすめは海沿いキャンプ！

夕日を見ながら飲むビールは最高です！🍺

新企画案内『みんなで語るべ～日々の楽しみ方～』

- ・内容：日々の中での楽しみ方や仕事の一場面、最近やってみた事等。
- ・文字数：140字～160字 ・写真：1枚
- ・施設名のみ掲載させて頂き、原稿執筆者の名前(イニシャル含む)は掲載しません。1回の発行につき、2～3名にご協力頂きたいと思っております。

<秋田県作業療法士会 入会のご案内>

作業療法士の役割は作業療法を必要とする人たちに、常に質の高い支援を提供することにあります。しかしどんなに優秀な作業療法士であっても個人の力だけでは作業療法の知識と技術を更新し、社会的地位の向上を目指すことは困難です。より多くの作業療法士が協会・県士会に所属し、会員として活動を共に担い、活動を活発にすることは、作業療法士だけでなく、作業療法を必要とする人たちの取り巻く環境をより良くすることに繋がります。

■入会方法


当士会ホームページの会員向け情報「入会届出フォーム」から入会の届出を行ってください。

■会費について

年会費：正会員 7,000 円

入会手続き後、事務局より年会費納入のご案内がありますので、それに従って期限内に納入をお願いします。

(一社)日本義肢協会登録
東北 101 号

 株式会社
千秋義肢製作所

~~~~~  
義手・義足・装具・車椅子  
リハビリ用品  
~~~~~

秋田市新屋豊町 1-22
TEL 018-823-3380
FAX 018-862-5126
<http://www.sensyugishi.co.jp>

編集後記



今回の広報誌では県士会会長の交代という大きな節目を掲載することとなりました。高橋敏弘先生が会長職を 24 年も務められており、自分が 24 年前に何をしていたか考えてみると…まだ小学生！！敬意と感謝しかありません。

そのことを頭の片隅において、編集作業に当たっていると、ふと youtube の「作業用 BGM 30 代が全員聞いたことある曲 Mix」を聞きながら作業を進めていました。近年の曲は歌もうまいし、好きでよく聞いたりもしますが英語の歌詞も多く、英語が苦手な私にとっては平成中ごろの曲が耳障りがいいのは自分だけでしょうか？（大好きなケツメイシや BUMP OF CHICKEN が流れると手が止まり、なかなか編集作業がはかどらないのでした…）

編集課：パパな



秋田県作業療法士会